

<第5学年の実践> (11年目研修)

I 社会科学習指導案

平成29年7月6日(木)

- 1 単元名 さまざまな食べ物とその産地を調べて、特徴を伝え合おう
 「わたしたちの生活と食料生産 ①くらしを支える食料生産」(東京書籍 5年上)

2 単元の目標

○我が国の農業や水産業は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを理解し、国民生活を支える食料生産に関心をもっている。
○食料品の産地から学習問題をつくり、地図や統計などの資料を活用して調べてまとめるとともに、農産物や畜産物の分布や土地利用の特色と自然環境とを関連づけて考え、適切に表現する。

3 単元の評価規準

○我が国の農産物や畜産物の分布や土地利用の特色に関心を持ち、調べようとすることができる。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

○農産物や畜産物の主な産地と自然環境とを関連づけて、主な産地と自然環境が深いかわりをもって営まれていることを考え、表現することができる。

【社会的な思考・判断・表現】

○地図や統計などの資料を活用して、我が国の農産物や畜産物の主な産地について必要な情報を集め、読み取ることができる。

【観察・資料活用の技能】

○我が国の農業や畜産業は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、自然環境と深いかわりをもって営まれていることを理解することができる。

【社会的事象についての知識・理解】

4 基盤

(1) 児童観

(2) 教材観

本単元は、我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色などを調べ、我が国の農業や畜産業が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、自然環境と深いかわりをもって営まれていることを考えさせるものである。

教科書では、様々な食料品の産地を調べ、国内で生産されている物や輸入品があることを知り、生産量の多い都道府県などを調べ、食料品の主な生産地の特徴をつかみ、農産物や畜産物の主な産地を調べ、産地と自然環境とが深いかわりをもって営まれていることを考えさせる展開となっている。産地を調べる活動では、学校図書館の資料を活用する。児童は農産物と畜産物から2つの食料品を選び、選んだ食料品が育つ特徴と主な産地の自然環境とを調べ、情報カードにまとめる。情報カードをもとに、選んだ食料品の主な産地と自然環境とを関連づけながらコンセプトマップにまとめ、友だちに伝え合う活動を取り

入れる。集めた情報をコンセプトマップに整理してまとめることで、事実を関連づけて自分の考えを見出すことができる。本単元の学習を通して、農業や畜産業が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていること、自然環境と深いかかわりをもっていることを理解し、次の米づくりの学習につなげたいと考える。

(3) 指導観

導入場面では、児童が準備した食料品のパッケージや食料品を扱う広告などを都道府県ごとに白地図にまとめ、気づいたことや考えたことを話し合うことを通して、学習内容を児童が身近に感じ、食料生産についての関心を高めるようにする。教科書を用いて産地と自然環境にはかかわりがあることをつかませ、自分で選んだ2つの食料品について調べる活動を行う。児童が調べやすいように、学校司書と資料の選定についてあらかじめ相談しておき、児童がスムーズに資料に出会うことができるようにする。

本時では、選んだ食料品についてあらかじめ児童が選んだ複数の資料のコピーから情報を取り出し、情報カードにまとめていく活動を行う。情報カードの「問い」の部分には、「〇〇（選んだ食料品名）はどのような△△（気候、土地、地形など）で育つのか。」「□□（食料品の主な産地）はどのような△△なのか。」というも文章を入れておき、児童は調べたいことがらを書き込んでいく。そうすることで問いの内容が明確になり、児童も何を調べるのかを意識して調べることができ、問いと答えを正対させることができる。調べる中で、調べた内容と実際の産地の特徴との矛盾が出てくることも考えられる。そのようなときは再び資料に戻って調べたり、準備しておいた別の資料を用いたりしながら考えさせたい。そうすることで、食料生産には産地の自然環境だけでなく、生産者の努力や工夫という視点で考える児童も出てくると考えられる。これはこれまで学習してきた「低い土地」「あたたかい土地」のくらしの工夫の考え方にもつながってくる。調べた情報カードをもとにコンセプトマップにまとめる際は、調べた情報を関連づけさせるために、情報を線で結んだり囲ったりして自分の考えを書き足したりして、友だちに伝えやすいようにする。

6 本時の学習（5時間目）

(1) 本時の目標

複数の資料を活用して、食料品と主な産地について、必要な情報を読み取り、情報カードにまとめることで、互いに交流することができる。

【観察・資料活用の技能】

(2) 本時の学習展開

時間(分)	主な学習活動と予想される児童の反応	教師の支援(○)と評価(☆)
2	1. 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 選んだ食料品と主な産地の特徴を調べよう。 </div>	○本時は、選んだ資料をもとに、必要な情報を情報カードにまとめる活動を行うことを示す。 ○情報カードをもとにコンセプトマップにまとめ、友だちに伝え合うという学習のゴールを確認し、意欲を高める。
3	2. 情報カードにまとめるポイントを確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①まず「問い」を設定する。(言葉をあてはめる) ②「問い」にあてはまる情報(答え)を調べ、マーカーペンをひく。 </div>	○情報カードを書画カメラで映し出ししながら、ポイントを確認する。 ○問いは前時までには書かせておく。 ○マーカーペンでひいたところから、特に大

	<p>③マーカーペンでひいたところから、短い言葉で情報カードに書く。</p> <p>④「問い」と「答え」があてはまっているか確認する。</p>	<p>事な情報だけを情報カードに書くように声をかける。</p> <p>○「問い」と「答え」が正対するように考えるように伝える。</p>
23	<p>3. 資料を使って、情報を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんごはどのような気候で育つのかな。 ・桃はどのような地形で育つのか調べよう。 ・山梨県はどのような気候だから、果物がよく育つんだらう。 ・肉牛はどうして寒い北海道と暖かい鹿児島と両方で多く生産されているんだらう。肉牛にどんな特徴があるのかももう一度調べてみよう。 	<p>○マーカーがひけない児童には、一緒に「問い」を確認して、そのことについて書かれている部分を探し、線をひかせる。</p> <p>○関連資料を準備しておき、児童が手にとりやすいようにしておく。</p> <p>○ポイントを意識して書くことができる児童のカードを書画カメラで映し出し、書き方のよさを共有する。</p>
10	<p>4. 情報カードを友だちと交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問い」と「答え」がきちんとつながっているいいな。 ・〇〇さんが調べた内容で、食料品と産地のつながりがよく分かったよ。 	<p>○ペアで交流して、「問い」と「答え」が正対しているかどうかを視点に質問したり交流したりするように伝える。</p> <p>☆選んだ食料品やその産地に関する情報を、情報カードに書くことができる。</p> <p>(資料、情報カード)</p>
5	<p>5. 本時の学習のふり返しをする。</p>	<p>○ふり返しカードを用いる。</p> <p>○情報カードの交流を通して学習が深まった点について書くようにする。</p>
2	<p>6. 次時の学習について確認する。</p>	<p>○もう1つの食料品について調べることを伝える。</p>

(3) 本時の評価

十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童の指導の手立て
<p>・資料から大事なところを落とさず見つけ、食料品と産地の特徴を関連づけながら、ポイントを意識しながら「問い」と「答え」が正対する情報を情報カードにまとめることができる。</p>	<p>・資料から情報を見つけ、「問い」と「答え」が正対する情報を情報カードにまとめることができる。</p>	<p>・選んだ資料を一緒に確認し、「問い」につながる情報を見つけて線をひき、情報カードに書くようにさせる。</p>

(4) 研究の視点

情報カードに必要な情報を資料から取り出すための手立ては、有効であったか。